逸楽と飽食の古代ローマ

『トリマルキオの饗宴』を読む

青柳正規
aoyagi masanori

講談
学術

逸楽と飽食の古代ローマ

『トリマルキオの饗宴』を読む

常州大学図書館
藏書章

青柳正規

講談社学術文庫

青柳正規（あおやぎ　まさのり）

1944年生まれ。東京大学文学部卒。古典考古学，美術史を専攻。東京大学教授などを経て，現在，国立西洋美術館館長，独立行政法人国立美術館理事長，東京大学名誉教授，日本学士院会員。おもな著書に『エウロパの舟の家』『古代都市ローマ』『皇帝たちの都ローマ』『興亡の世界史・第00巻　人類文明の黎明と暮れ方』など。

講談社学術文庫

定価はカバーに表示してあります。

逸楽と飽食の古代ローマ
『トリマルキオの饗宴』を読む
青柳正規

2012年5月10日　第1刷発行

発行者　鈴木　哲
発行所　株式会社講談社
東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001
電話　編集部（03）5395-3512
販売部（03）5395-5817
業務部（03）5395-3615
装　幀　蟹江征治
印　刷　株式会社廣済堂
製　本　株式会社国宝社
本文データ制作　講談社デジタル製作部

© Masanori Aoyagi　2012　Printed in Japan

落丁本・乱丁本は，購入書店名を明記のうえ，小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。なお，この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。
本書のコピー，スキャン，デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。Ⓡ〈日本複製権センター委託出版物〉

ISBN978-4-06-292112-1

目次

逸楽と飽食の古代ローマ

学術文庫版のまえがき……3
第一章　ペトロニウスと皇帝ネロ……13
1　作者ペトロニウス・アルビテル……13
2　ネロの時代……23
3　一次資料としての小説……40
第二章　トリマルキオの饗宴……45
プロローグ……45
不思議なボール遊び　トリマルキオ　入浴法　マッサージ師　男色家　トリマルキオの玄関　猛犬注意　大広間の壁画　神棚　食堂の入口　迷信と盗難事件　着席
第一幕　前菜……78

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

味見　トリマルキオの入場　ゲーム　卵の前菜　オピミウス酒　銀製の骸骨

第二幕　メインコース……104

主餐その一、黄道十二宮尽くし　開けてびっくり玉手箱　トリマルキオの奥方　自家生産　二人の解放奴隷　主餐その二、帽子をかぶるイノシシ　解放されたイノシシと奴隷

幕間　世間話……137

世間話その一、故人の評価　世間話その二、今は昔　世間話その三、剣闘士の見世物　世間話その四、息子の教育　奴隷　修辞論争　主餐その三、臓物をのこした豚　青銅の皿とガラスの杯　水は外、酒は内　会計報告　文学論争　技芸論争とみやげもの　ホメロス吟誦者　主餐その四、茹でた仔ウシ　動く天井とみやげもの　口直し　ハビンナスの入場　九日目の宴のメニュー　奥方たち

第三幕　デザート……219
二番目の食卓　無礼講　遺言状と墓　退散のこころみ
うち風呂
大団円……245
夫婦喧嘩　成功物語　葬式ごっこ
第三章　ドラマとしての饗宴……258
1　食事と饗宴……258
2　登場人物……262
3　三単一の法則……264
索引・用語解説・註記……311
参考文献・略号……313

逸楽と飽食の古代ローマ

『トリマルキオの饗宴』を読む

青柳正規

講談社学術文庫

学術文庫版のまえがき

いま何故、ローマなのだろう。イタリア・ルネサンスの時代から現代にいたるまで、さまざまな国、さまざまな時代に古代ローマは注目を集めてきた。もはや語り尽くされた感のある一方で、時とところが変われば新たに語り直さざるを得ない対象なのかもしれない。たしかにこの一〇年ほどの間に私たちの世界は大きく変わりつつある。九・一一に続くアフガン戦争、そしてイラク戦争の勃発、リーマンショックとギリシア経済危機、これらの出来事を通じて明らかになったことは、アメリカ合衆国が超大国としてかつてのような圧倒的な影響力を行使できなくなったこと、そして第二次世界大戦以降の国連を中心とする国際秩序が曲がり角にきていながら誰も新たな国際体制を構想できていないという閉塞感である。

アフガン戦争やイラク戦争でアメリカ軍が見せた空からの圧倒的な強さに反して、その後の地上での厳しい戦いぶりをみて、アメリカは「空の帝国」と見なされるようになった。一九世紀ヴィクトリア時代の大英帝国は世界の七つの海を制覇したのであるから「海の帝国」ということができる。では真の「陸の帝国」はどこかとなると誰もが思い出すのがローマ帝国である。このような分類自体、最近一〇年の出来事がなければ生まれてこなかっただろ

う。おそらく現代社会を覆う閉塞感がローマ帝国という英雄を願望しているのかもしれない。もしそうであるのなら、「人類史上、最強の国」として美化することには徹底した注意が必要である。と同時に、紀元前一世紀末に実現した領域国家としてのローマ帝国の体制が紀元四世紀初めまで継続したという事実も冷静に受けとめるべきであろう。

ソクラテス、プラトン、アリストテレスらの哲学者、アイスキュロスやアリストパネスのような悲劇や喜劇の作家、フェイディアスやプラクシテレスのような彫刻家を輩出したギリシアと違い、ローマ社会は、天才もしくは巨匠と称されるような人物を生み出すことはなかった。しかし、ギリシア以来の蓄積を応用し実用化することによって市民生活を飛躍的に向上させたことは事実である。その充実ぶりを端的に物語るのが『トリマルキオの饗宴』である。もちろん誇張がないわけではない。しかし、同時代の人々が許容しうる誇張であり、奇想天外な別世界の物語ではなかったことも確かである。

成金であることを包み隠すことなく、むしろその財力で途方もない悪趣味を展開することに自らの存在理由を託すかのようなトリマルキオの生き方は、手段でしかない経済が目的と化してしまっている現代社会を痛烈に嘲笑しているかのようである。その意味でも、『トリマルキオの饗宴』が時代を超えた価値を有していると評価できるのである。もちろんローマ社会固有の問題も数多く含まれている。成功した解放奴隷だけが集まる気心が知れた仲間た

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

ちとの会食は、社会的弱者としての解放奴隷たちによる傷のなめあいととることもできる。しかし、そのような集団のありかたこそ、ローマ社会の多様性と寛容さの証でもあるといえよう。

逸楽と飽食を謳歌したローマ社会は、一度味わった甘美な味を忘れることは出来なかった。イタリア半島に住むいわゆる生粋のローマ人たちは兵役に就くことを避けるようになり、軍団は属州出身者が中心となっていく。北アフリカ出身の兵士はヨーロッパに、ヨーロッパ辺境地帯の兵士は北アフリカに配属するという余裕があるうちは、属州出身の兵士たちもそれなりの兵力として活躍した。しかし、そのような「転属」の余裕さえなくなる三世紀後半以降になると、軍団内部に深刻な腫れ物を抱える状態となり、軍団の戦力減退の原因ともなっていくのである。ローマ帝国の衰退は、現代のわれわれが「危険」「汚い」「きつい」のいわゆる3Kを疎んじる状況がさらに進めば、その先に何が待っているかを暗示しているかのようである。

なお、本書は中公新書での刊行からすでに十五年を経ているが、この学術文庫版の刊行にあたっては、明らかな誤植や誤記以外の加筆はしなかったことをご了承いただきたい。

二〇一二年　四月

著　者

目次

逸楽と飽食の古代ローマ

学術文庫版のまえがき……3
第一章　ペトロニウスと皇帝ネロ……13
1　作者ペトロニウス・アルビテル……13
2　ネロの時代……23
3　一次資料としての小説……40
第二章　トリマルキオの饗宴……45
プロローグ……45
不思議なボール遊び　トリマルキオ　入浴法　マッサージ師　男色家　トリマルキオの玄関　猛犬注意　大広間の壁画　神棚　食堂の入口　迷信と盗難事件　着席
第一幕　前菜……78

味見　トリマルキオの入場　ゲーム　卵の前菜　オピミウス酒　銀製の骸骨

第二幕　メインコース……104

主餐その一、黄道十二宮尽くし　開けてびっくり玉手箱　トリマルキオの奥方　自家生産　二人の解放奴隷　主餐その二、帽子をかぶるイノシシ　解放されたイノシシと奴隷

幕間　世間話……137

世間話その一、故人の評価　世間話その二、今は昔　世間話その三、剣闘士の見世物　世間話その四、息子の教育　奴隷　修辞論争　主餐その三、臓物をのこした豚　青銅の皿とガラスの杯　水は外、酒は内　会計報告　文学論争　技芸論争とみやげもの　ホメロス吟誦者　主餐その四、茹でた仔ウシ　動く天井とみやげもの　口直し　ハビンナスの入場　九日目の宴のメニュー　奥方たち

第三幕　デザート……219
二番目の食卓　無礼講　遺言状と墓　退散のこころみ
うち風呂
大団円……245
夫婦喧嘩　成功物語　葬式ごっこ
第三章　ドラマとしての饗宴……258
1　食事と饗宴……258
2　登場人物……262
3　三単一の法則……264
索引・用語解説・註記……311
参考文献・略号……313

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton